

桜 島

○ 火山活動度レベル

2 (比較的静穏な噴火活動)

○ 概 況

噴火¹⁾は 1 回発生し、爆発的噴火でした。下旬に微小な火山性地震が増加しましたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状況が続いています。

・ 噴火活動の状況(表 1)

爆発的噴火が 26 日に 1 回発生しました。

・ 噴煙活動の状況

爆発的噴火が発生した 26 日に灰白色の噴煙が観測され、その噴煙高度は 400m でした。

・ 降灰の状況(表 2)

鹿児島地方気象台での観測では、降灰²⁾はありませんでした。

・ 地震・微動活動の状況(表 3、図 2、図 3、図 4)

24 日より火山性 B 型地震が増加しており、28 日には日回数が 132 回発生しましたが、いずれも振幅の小さなものでした。火山性地震は長期的には少ない状況が続いています。

火山性微動は 12 回発生し、いずれも継続時間の短いもの（継続時間計 9 分）でした。

・ 地殻変動の状況(図 6)

G P S 連続観測による地殻変動観測では、始良カルデラの膨張によると考えられる東西方向のわずかな伸びの傾向が続いていますが、短期的には 2005 年 3 月以降伸びの鈍化が見られます。

1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。ここで示す噴火回数はこの回数を示します。

2) 鹿児島地方気象台(南岳の西南西、約 11km)における前日 09 時～当日 09 時に降った 1 m²あたりの総降灰量を観測しています。

震央分布図等の資料作成にあたっては、気象庁のデータその他、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)、25000 分の 1 の地形図を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)

表 1 最近 1 年間の月別噴火¹⁾ 回数(2005 年 2 月～2006 年 1 月)

2005～2006 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
噴火回数	—	—	—	—	1	8	—	2	2	1	2	1
爆発的噴火	—	—	—	—	1	8	—	—	—	1	1	1

■ 26 日に爆発的噴火が 1 回発生しました。鹿児島地方気象台での観測では、爆発音・体感空振はともになしで、また噴石の飛散ありませんでした。

表 2 最近 1 年間の月別降灰量²⁾ と降灰日数(2005 年 2 月～2006 年 1 月)

2005～2006 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
降灰量(g/m^2)	—	—	—	—	0	—	—	2	0	1	—	—
降灰日数	—	—	—	—	1	—	—	2	5	1	—	—

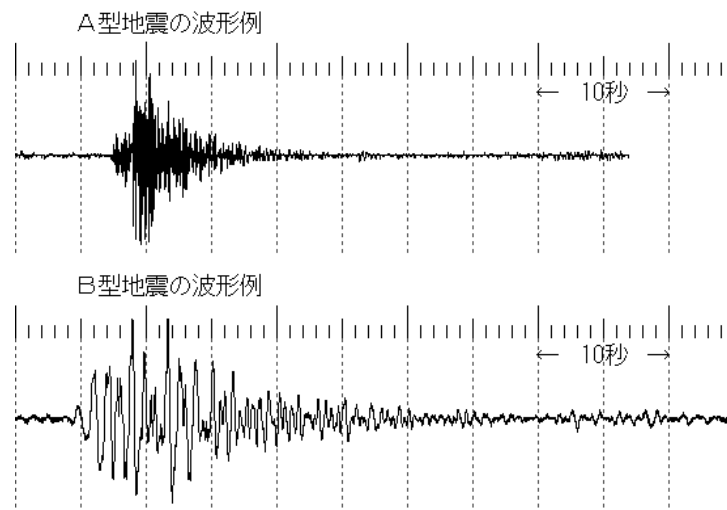
※ 「—」は降灰なし、「0」は 1m^2 あたり $0.5\text{g}/\text{m}^2$ 未満を表します。

■ 1 月は、鹿児島地方気象台では降灰は観測されませんでした。

表 3 最近 1 年間の地震・微動回数(B 点：2005 年 2 月～2006 年 1 月)

2005～2006 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
地震回数	205	231	125	236	50	129	132	303	202	485	532	1128
微動回数	0	4	3	2	0	29	2	5	0	2	21	12

■ 1 月は、火山性地震が 1128 回発生し、最近 1 年間にしては多くなっていますが、いずれも振幅の小さなものでした。

**図 1 桜島における火山性 A 型地震と B 型地震の波形例**

桜島で発生する火山性地震には、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩盤破壊によって発生する、高周波で P・S 波が明瞭な A 型地震や、マグマが火道を上昇するときの柔らかい部分の破壊やマグマの発泡現象によって発生する、低周波の B 型地震などがあります。

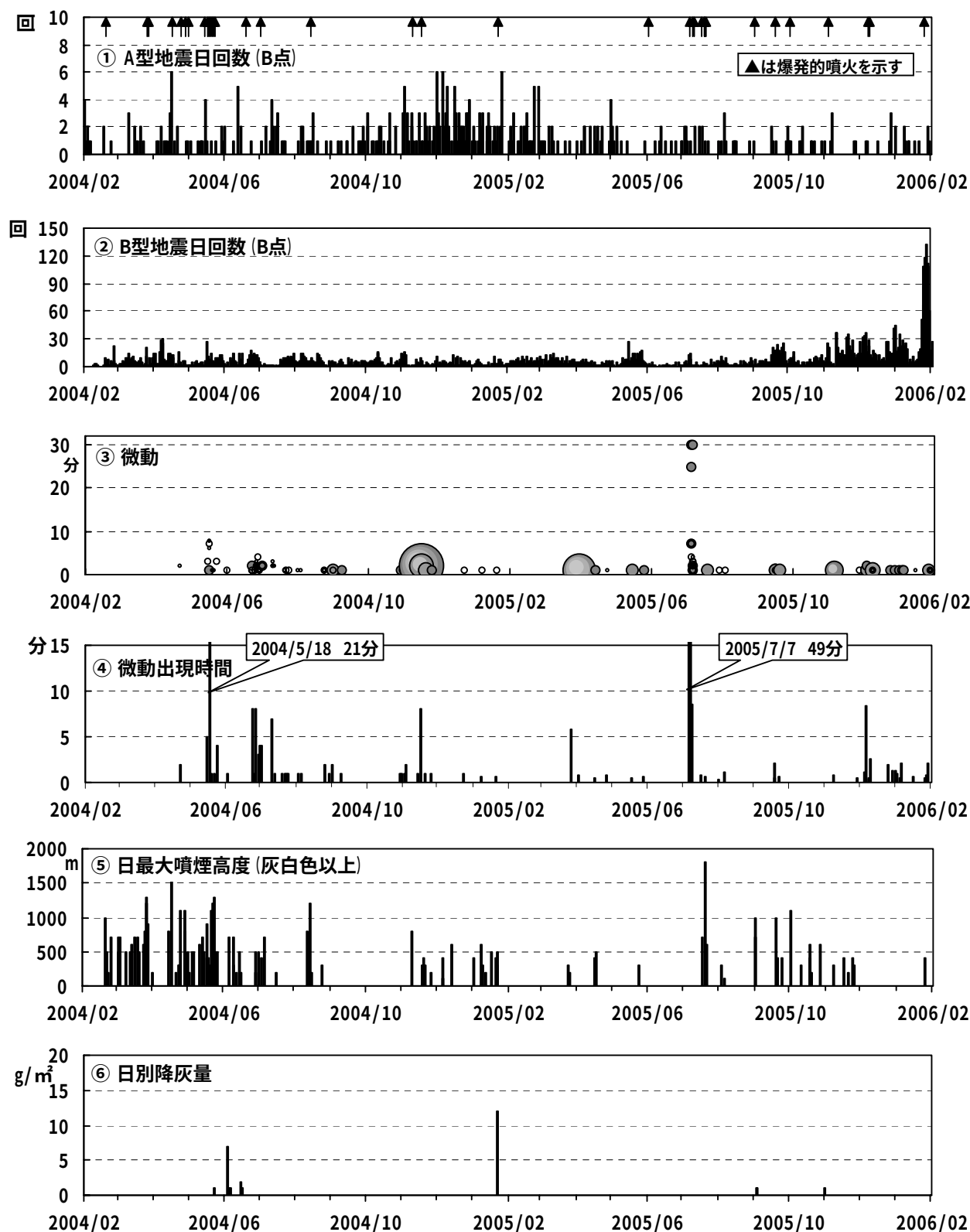


図2 最近2年間の火山活動経過図(2004年2月～2006年1月)

- 火山性A型地震は、月合計で12回観測しました。
- 火山性B型地震は、1月下旬に増加していますが、いずれも振幅の小さなものでした。
- 火山性微動は、月合計で12回(継続時間計9分)観測しました。

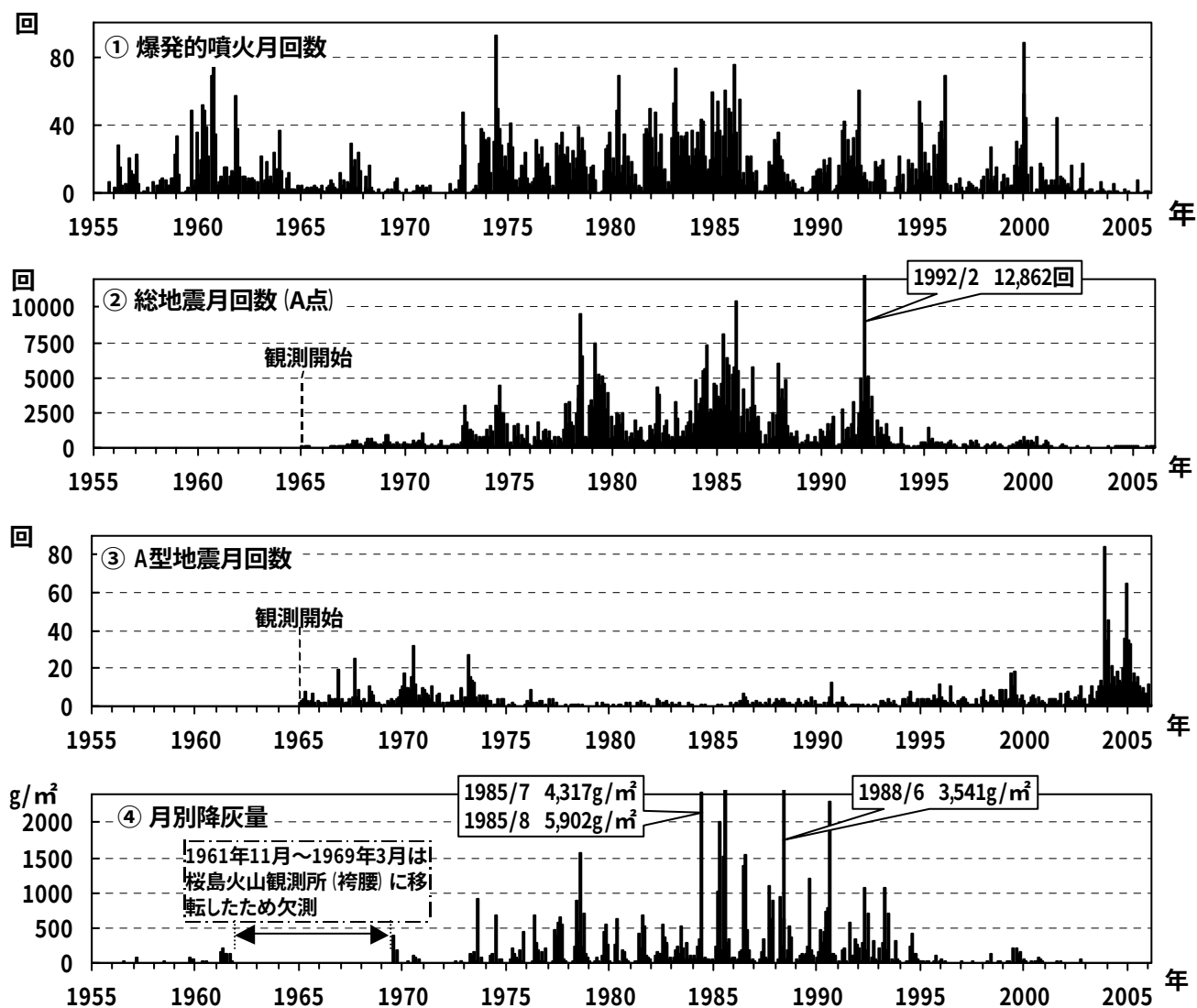


図3 長期の火山活動経過図(1955年1月～2006年1月)

■火山性地震は、長期的には少ない傾向が続いています。

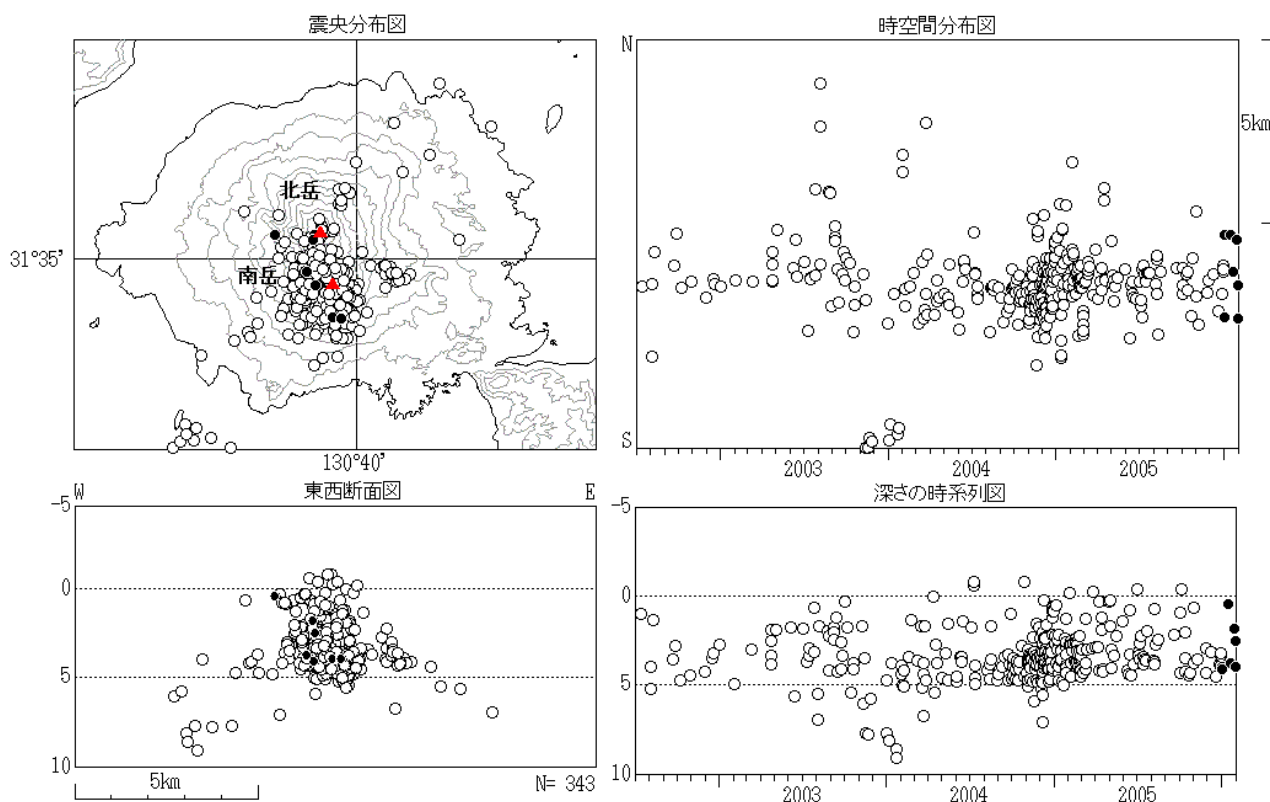


図4 火山性A型地震の震源分布図(2002 年 7 月 1 日～2006 年 1 月 31 日)

※本資料は、気象庁データその他、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。今期間の震源は黒丸で表示しています。

■震源は北岳から南岳直下の海面下0～5 km に分布しました。

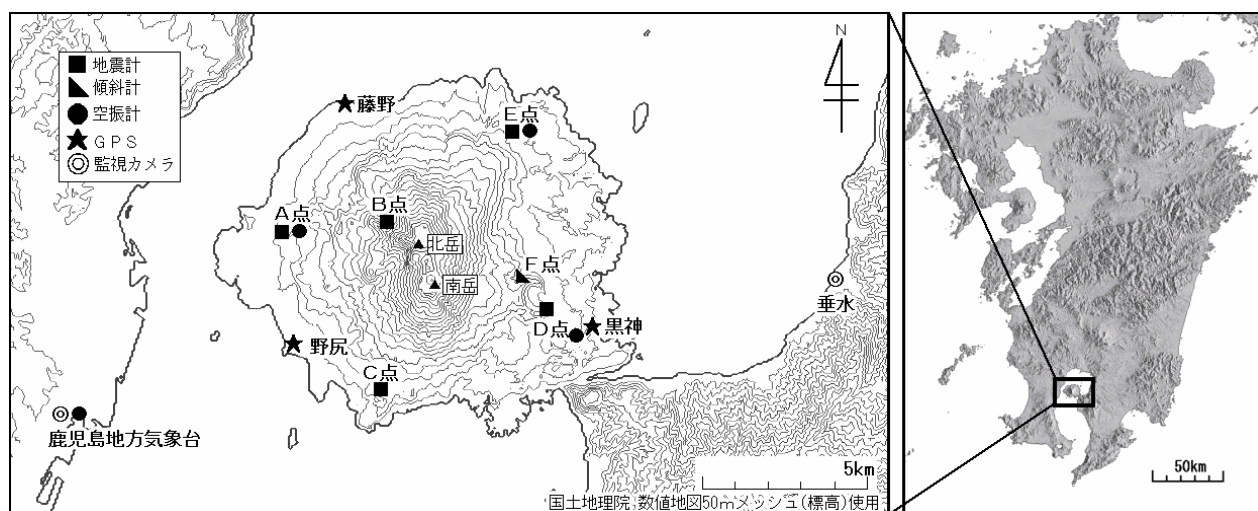
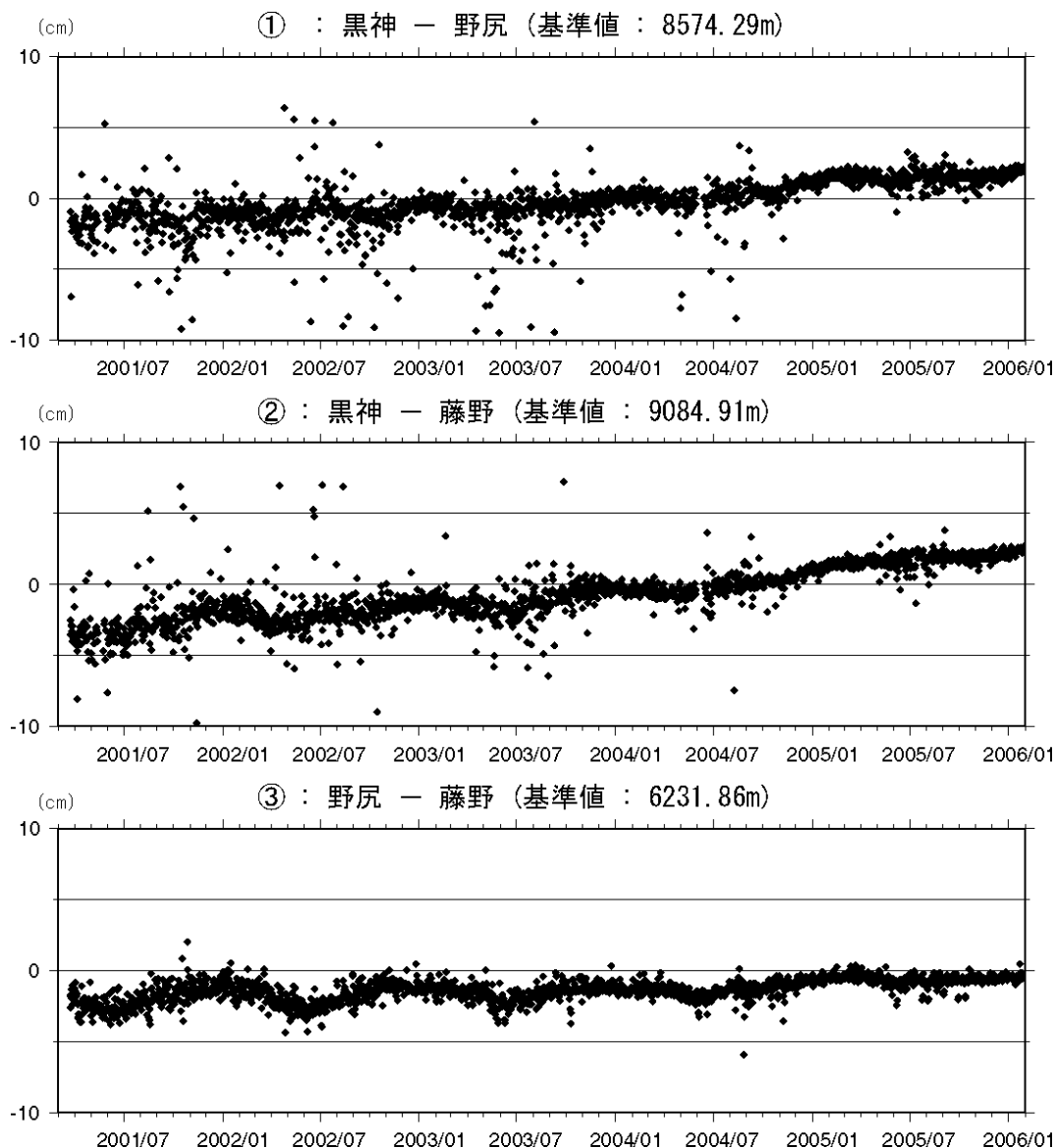


図5 桜島観測点配置図



※基線長変化グラフの空白部分は欠測

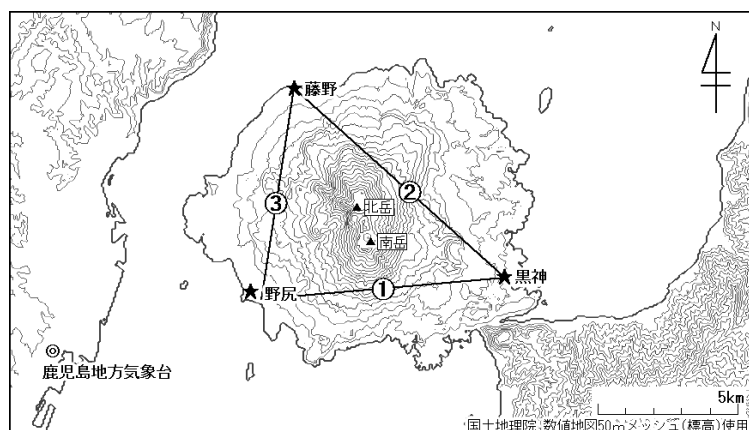


図6 GPSによる基線長変化(2001年3月22日～2006年1月31日)

■GPS連続観測による観測では、長期的には始良カルデラの膨張によって考えられる東西方向にわずかな伸びの傾向が続いていますが、昨年3月以降は各観測点間の基線長の伸びが鈍化しています。